



動き始めた

## 「認知症初期集中支援チーム」のこと②

発行：京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課  
電話：075 (746) 7734

平成30年5月

みなさまも御存知のとおり、京都市では平成28年度から認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の方の支援に取り組んできました。京都市で最初に認知症初期集中支援チームを設置した北区・上京区は、認知症地域支援推進員活動ニュース (vol.11) でも取り上げたところです。平成29年度には新たに2つのエリアで認知症初期集中支援チームが設置されました。そこで今回は、平成29年7月から認知症初期集中支援チームが配置されている、西京区エリアと下京区・南区エリアの活動を御紹介します。



### 西京区認知症初期集中支援チームの堂園さんにお聞きしました！

#### 事務局チーム員として工夫していること

##### ① まずは広報活動！

西京区では、これまで認知症の相談窓口は高齢サポート（地域包括支援センター、以下「包括」）が担っていたことから、認知症初期集中支援チームへの相談も包括を最初の窓口にしてはいますが、実際には事務局へ直接相談が入ることもあります。より多くの方が認知症の早期発見・診断につながるよう、認知症初期集中支援チームを周知するために広報はとても重要だと思います。医療機関や公的機関、かかりつけ医や居宅介護事業所、認知症カフェ等に出向いて広報活動をしています。

##### ② チーム員会議は人材育成の場！参加者のスキルアップを意識しています。

多職種が集まるチーム員会議では、本人が地域で暮らし続けられるよう多面的なアセスメントにより具体的な支援方法をよく検討しています。それが包括的・専門的な視点の気づきとなり、地域やチームを成長させ質の向上につながる勉強の場と考えています。またチーム員会議の結果は必ず支援対象者の家族に報告し、家族への具体的なアドバイスにつなげます。

#### 一緒に仕事をしている包括(認定チーム員)の皆さんへ

私は訪問看護やケアマネジャーの実践経験があり、在宅看護専門看護師としても在宅で療養する対象者及びその家族が、個々の生活の場で日常生活を送りながら在宅療養を続けることを支援しています。また、かかりつけ医やサポート医、包括等へ働きかけ多職種間の調整や連携促進に努めています。今後も多くの包括職員の方々と連携を図っていきたいです。

#### これから認知症初期集中支援チームが始まる皆さんへ…

最初にチームが目標に向かって共通認識を持つことはとても大切だと思います。地域の特徴を把握しながらどんな体制で進めるのか、認知症初期集中支援チームと包括でルール化し、共有することにより、認知症初期集中支援チームの事務局の運営が円滑になり、包括、ひいては本人や家族にとっても利用しやすい制度になるかと思っています。お互い頑張りましょう！

#### 西京区認知症初期集中支援チーム概要

事務局：京都桂病院に設置（京都桂病院に委託）

チーム員医師：6名

相談件数：62件（うち訪問支援対象者数35件）  
（平成30年3月31日現在）

チーム員会議：月に3～4回（第1～4金曜日に実施）

※西京区管内は京都桂病院、洛西支所管内は  
洛西シミズ病院で実施。



事務局チーム員：堂園さん  
（看護師）



## 下京区・南区認知症初期集中支援チームの顛原さんにお聞きしました！

### 事務局チーム員として工夫していること

#### ①認知症を切り口にした健康相談を目標にしています。

身体的な治療優先の人が多くこともあり、認知症をきっかけに対象となる方が抱えている課題について、総合的に支援するようにしています。本人のできることを見つけていく視点で関わり、本人にとって会話が楽しくなる工夫をしながら認知症の評価をしています。

#### ②家族には認知症を理解してもらうよう取り組んでいます。

精神保健福祉士ならではの視点だと思いますが、家族が認知症を正しく受け入れられるまで寄り添うことを大切にしています。そうすることで、認定チーム員（包括職員）さんは具体的なサービス調整に力を注ぐなど、役割分担を行うことを期待しています。

#### ③多職種が連携することを目指しています。

認知症初期集中支援チームの重要な役割はアセスメントであると思います。より詳しく、精度の高いアセスメントを行うためには、様々な職種の視点が重要と考えており、医師だけでなく、薬剤師や作業療法士などの職種にも関わって欲しいと思っています。またチーム員会議では多職種が意見を気軽に出し合える雰囲気づくりを心がけています。

### 担当地域(下京区・南区)で活動してみて感じたこと

担当エリアである下京区・南区は、住民同士のつながりが強い地域だと感じます。例えば、高齢夫婦のみの世帯で配偶者が亡くなった後、独りになった人に対して住民同士で見守りや話し相手を自然に行っている光景が、この地域では珍しくありません。認知症に関しては、そういった住民同士の関わりや、複数の総合病院でもの忘れ外来があることで、認知症の心配がある人が初期のうちから相談や治療を受けやすい環境が整っていると思います。そのためか、こちらに相談が寄せられるのは、認知症の症状以外の疾患を併せ持つ方が多い傾向にあります。

### これから認知症初期集中支援チームが始まる皆さんへ…

事務局チーム員と認定チーム員（包括職員）の役割分担をして、包括とチームワークを組んで支援を進められればいいと思います。地域の力をどのように生かすかがポイントだと思います。

### 下京区・南区認知症初期集中支援チーム概要

事務局：康生会武田病院に設置（康生会武田病院に委託）

チーム員医師：10名

相談件数：42件（うち訪問支援対象者数34件）

（平成30年3月31日現在）

チーム員会議：月に1回、その他随時実施

※2名以上のサポート医が出席。



事務局チーム員：<sup>えばら</sup>顛原さん  
（精神保健福祉士）

### お知らせ！

平成30年度は、認知症初期集中支援チームを3チーム増設します！  
左京区、山科区、伏見区（深草・醍醐含む）にそれぞれ1チームができます。  
平成30年8月からの稼働を目指し、現在準備中です。

編集後記 認知症初期集中支援チームは現在、3チームが稼働中ですが、それぞれのチームで工夫されていることや地域の違い等を感じることができました。本年度、新たに始まる3チームも支援チームごとに特徴が出てくるのではないのでしょうか。今後、チームは全市展開を目指してまいります。 平林